

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586018901	科目番号 / Subject code	05860189
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教育の基礎 (教育心理)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	前原 由喜夫		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	前原 由喜夫		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	前原 由喜夫		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目, 教職に関する科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	ymaehara@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	教育学部212号室		
担当教員TEL/Tel	2386 (内線)		
担当教員オフィスアワー/Office hours	木3		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	<p>本講義では、子どもの成長と学習を適切に支援するための基礎知識を心理学的側面から学ぶ。教育現場において、子どもの知的能力や社会性を向上させるための教授法や指導法を考える前に、人間の認知能力の構造や社会的能力の特徴を理解しておかなければ、大人がいくら頭をひねって方法を考えたところで有効に作用しない可能性が高い。前半の講義では、人間の知的活動の基盤にある認知メカニズムに関して、近年の教育心理学分野におけるホットトピックであるワーキングメモリを中心にその基本的概念から応用的知見までを学ぶ。そして、後半の講義では、人間の社会的能力の発達に関して、もうひとつのホットトピックである心を読む能力、すなわち「心の理論」を中心に、その認知的仕組みや発達障害について学ぶ。本講義で教育心理学の考え方を習得し、新たな知見を学び続けるための方法を獲得すれば、それは将来教育現場で働く人だけでなく、自分が親になったときの育児や、一人の責任ある大人として子どものよりよい育ちと学びを実現するための教育環境・教育政策を考える際にも役立つだろう。</p>		
授業到達目標/Goal	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の知的活動の基礎的な認知メカニズムを理解する。</li> <li>・子どもの認知的発達および社会的発達のプロセスの基本を理解する。</li> <li>・心理学を自ら学び続けるために、心理学の研究における考え方や方法論を身につける。</li> <li>・大学生活において自分自身の学びを有意義なものにするにはどうすればよいかを考える。</li> </ul>		
授業方法 (学習指導法) /Method	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義 教育心理学の基礎事項について理解する。</li> <li>2. 課題 授業内に課す課題や蓄積型レポートおよび理解型レポートを通して探究力と表現力を身につける。</li> <li>3. さらなる学びのために 授業で紹介された本や論文を読んでみる。</li> </ol>		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	教育, 心理学, 知能, 発達, 社会的能力, ワーキングメモリ, 心の理論		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	<p>&lt;参考図書&gt;            アラン・バドリー (著), 井関龍太・齊藤智・川崎恵里子 (訳) (2012). ワーキングメモリ 思考と行為の心理学的基盤. 誠信書房.            湯澤正通・湯澤美紀 (編) (2014). ワーキングメモリと教育. 北大路書房.            無藤隆・子安増生 (編) (2011). 発達心理学. 東京大学出版会.            遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子 (2011). 乳幼児のこころ 子育て・子育ての発達心理学. 有斐閣.</p>		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	授業参加度 (随時) 20 % 自己蓄積型レポート (随時) 50 % 授業理解型レポート (期末) 30 %		
受講要件 (履修条件) /Requirements	授業外での学習および課題やレポートの作成にも相当な時間を費やす必要がある。		
学生へのメッセージ/Message for students	本モジュール「教育の基礎」は、みなさんが当然のように受けてきた「教育」とは何かを、哲学、心理学、行政制度の側面から捉え直し、今度は教育をする側にいる大人として何ができるのかを考えてもらいます。教育心理学に関わる本授業では、自分自身で心理学を学び続けるスキルを身につけ、心理学の知見を生活や仕事、教育現場、臨床場面に活用する方法を考えることも心がけてください。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	はじめに：授業に関する注意事項；教育の中の心理学；あなたの学びを考える		

第2回	認知と学習 : 短期記憶と長期記憶
第3回	認知と学習 : ワーキングメモリの基礎
第4回	認知と学習 : 知能の正体
第5回	認知と学習 : 実行機能の基礎
第6回	認知と学習 : 認知機能の一時的低下を招く要因
第7回	認知と学習 : 認知機能トレーニング
第8回	前半「認知と学習」に関するふり返り
第9回	発達と社会 : 乳幼児期の社会性の発達
第10回	発達と社会 : 乳幼児期の知的発達
第11回	発達と社会 : 心の理論の発達
第12回	発達と社会 : 心の理論を支える認知能力
第13回	発達と社会 : 発達障害
第14回	発達と社会 : 思春期のリスク行動
第15回	後半「発達と社会」に関するふり返り
第16回	

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586019301	科目番号 / Subject code	05860193
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教育の基礎 (教育行政・制度論)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	楠山 研		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	楠山 研		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	楠山 研		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目, 教職に関する科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育C棟16		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	kusuyama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	教育学部 2 1 9 室		
担当教員オフィスアワー / Office hours	随時 (要メール連絡)		
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	教育行政および教育制度の基本的な知識を身につけるとともに、具体的なテーマをもとに、教育行政および教育制度のあり方を検討する。その際、諸外国の教育行政および教育制度との比較もとりいれ、そこから日本の教育の特徴を考える。		
授業到達目標 / Goal	教育行政・制度の意味を理解するとともに、具体的で身近なテーマをもとに、そのあり方について背景を含めて検討できる。また国際比較や歴史などの視点も加えて、現在の日本の教育行政・制度の特徴について多角的に考察できる。		
授業方法 (学習指導法) / Method	簡単な講義を話題提供として、討論形式を中心に、適宜映像資料等を利用して授業を進めていく。班ごとの発表がある他、毎回発表について意見交換をしてもらう。		
授業内容 / Class outline / Con			
キーワード / Key word	教育と社会のつながり、取捨選択、国際比較		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	教科書は指定しない。 参考書 河野和清『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年。 その他の参考書は授業中に適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	この授業の目標が達成されているかどうかという観点から評価する。 グループ活動への評価 (相互評価を含む) 40% 授業中の小レポート等 30% 定期試験 (レポートの場合あり) 30%		
学生へのメッセージ / Message for students	ある制度がなぜあるのか、その背景を含めて考える癖をつけましょう		
授業計画詳細			
回 (日時) / Time (date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	第1回 オリエンテーション (この授業の進め方について)		
第2回	第2回 授業担当者からの提案 (1) 教育行政・制度とは何か		
第3回	第3回 授業担当者からの提案 (2) 現代における教育行政・制度		
第4回	第4回 授業担当者からの提案 (3) 現代における教育行政・制度		
第5回	第5回 討論の進め方と練習		
第6回	第6回 討論 (1) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める		
第7回	第7回 討論 (2) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める		
第8回	第8回 討論 (3) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める		
第9回	第9回 討論 (4) 授業担当者からの提案を手がかりに議論を進める		
第10回	第10回 ここまでの議論のまとめと今後の提案作り		
第11回	第11回 討論 (5) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		
第12回	第12回 討論 (6) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		
第13回	第13回 討論 (7) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		
第14回	第14回 討論 (8) 参加者からの提案を手がかりに議論を進める		
第15回	第15回 教育行政・制度を学んでわかること		
第16回	試験		

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	他 / Oth. 0
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586025301	科目番号 / Subject code	05860253
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	教育の基礎 (教育原理)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	関谷 融		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	関谷 融		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	関谷 融		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room			
対象学生 (クラス等) / Object Student	全学生		
担当教員Eメールアドレス / E-mail address	sekiya@sun.ac.jp		
担当教員研究室 / Laboratory	非常勤講師室		
担当教員TEL / Tel			
担当教員オフィスアワー / Office hours			
授業の概要及び位置づけ / Course Outline and Objectives	教育の根本理念並びに教育に関する歴史及び思想の現代的意義を理解すること		
授業到達目標 / Goal	『児童の権利に関する条約』に定められた教育(学)の基本概念とそれらにおける教育のエートスについて説明することができる。また、原理的に考察することによってそれらの有効範囲(効用と限界)を説明することができる。		
授業方法(学習指導法) / Method	講義方式。		
授業内容 / Class outline / Con	1989年に採択された『児童の権利に関する条約』の成立過程における子ども観をめぐって展開された論争における教育(学)のいくつかの根本概念を取り上げ、本条約において子どもの市民的自由が確認されるまでの、子ども観の歴史的変容と子どもの権利の拡充、及び同条約における子どもの市民的自由条項の内容について点検する中で、教育のエートスについて講義する。		
キーワード / Key word	パラダイム エートス 保護		
教科書・教材・参考書 / Textbook, Teaching material, and Reference book	授業時に提示する。		
成績評価の方法・基準等 / Evaluation	定期試験(定期試験が実施できない場合はレポート)100%。		
受講要件(履修条件) / Requirements	とくになし		
学生へのメッセージ / Message for students	配布物を熟読しておいてください。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	オリエンテーション(講義の進め方及び「エートス」とは何かについて)		
第2回	児童権利条約の概要(条約の構成と意義を知る)		
第3回	子ども観の変容と子どもの権利(1)('子ども'はどう発見・発掘されたか)		
第4回	子ども観の変容と子どもの権利(2)('保護'とはどういう思想か)		
第5回	子ども観の変容と子どもの権利(3)(適性手続という争点かどのような影響を与えたか)		
第6回	子ども観の変容と子どもの権利(4)(表現の自由をめぐって何が議論されたか)		
第7回	子ども観の変容と子どもの権利(5)(児童権利条約の審議経過:各国の事情)		
第8回	子どもの意見表明権と市民的自由(1)('主体'をどう定めるべきか)		
第9回	子どもの意見表明権と市民的自由(2)('対象'をどう定めるべきか)		
第10回	子どもの意見表明権と市民的自由(3)('意見'はどう取扱われるべきか)		
第11回	子どもの意見表明権と市民的自由(4)(親および国の役割はどうあるべきか)		
第12回	総括(1)「子ども」という根本概念で何が見えるようになり、何が見えなくなったのか		
第13回	総括(2)「成長」という根本概念で何が見えるようになり、何が見えなくなったのか		
第14回	総括(3)「理解」という根本概念で何が見えるようになり、何が見えなくなったのか		
第15回	総括(4)「保護」という根本概念で何が見えるようになり、何が見えなくなったのか		
第16回	定期試験		